

### 3-2 教育改革ITフォーラム

本会議は、教育改善のための情報技術活用に伴う問題の研究討議を目的として継続開催してきたが、情報技術を中心とした取り組みでは教育改革の課題を解決するための議論の広がりには限界があると判断し、教育改善に向けた教員の意識改革、大学としての戦略的教育政策の在り方、教員の教育力の向上策などが議論できるようにするため、これまでの「教育の情報化フォーラム」を改組して、「教育改革ITフォーラム」として再出発することにした。また、フォーラムの企画・運営・実施もこれまでの「教育情報化フォーラム運営委員会」を改組し、「教育改革ITフォーラム運営委員会」（委員長：山崎和海、立正大学）を設置して対応した。

#### (1) 開催要項の決定

今年度は、大学が組織的に取り組むべき課題として、教育の情報化のための組織、教育支援の在り方、社会による教育支援、教育の評価・点検について理解を深めることを重視して、初日は明治大学による「教育の情報化本部」の発足の経緯と教育の質的向上への取り組み、パネルディスカッションによるファカルティ・デベロップメントの組織作りと目標設定、教員の意識改革へのインセンティブ、プロジェクト・マネジメントについて理解を深めることにした。

テーマ別の自由討議は2日目に実施し、e-Learningの活用、教育支援体制、産学連携による教育、学内情報を活用した教育支援の他、新たに教育力向上のための教育評価・点検をテーマとすることにした。以下に6月1日から11日の2日間に亘り、関西大学を会場に開催することにした。開催要項は、以下に掲載する。

#### 平成18年度教育改革ITフォーラム開催要項

開催日 平成18年6月16日（金）～17日（土）  
会場 帝塚山大学  
(6/16学園前キャンパス、6/17東生駒キャンパス)

#### 【開催趣旨】

教育改革のための課題を確認し、解決のための戦略を討議の中で模索することを目的として、教員に求められる教育力、ファカルティ・デベロップメントとしてのIT活用対策、社会支援を取り入れた新しい教育システム、職員による教育支援組織の運営、個人学習指導での学内情報の活用などについて

て、問題提起を踏まえ討議する。

〔6月16日（金）〕

- I. 開会挨拶 社団法人 私立大学情報教育協会 戸高 敏之 会長
- II. 会場校挨拶 学校法人 帝塚山学園理事長 山本 順英 氏
- III. 運営委員紹介

#### IV. 事例紹介「大学戦略としての教育の情報化」

本セッションでは、教育の質的向上を目指して、教員の教育活動や学生の大学生活への支援をITを活用して組織的に推進するため、「教育の情報化推進本部」を設置された明治大学から、設置のねらい、経緯、具体的な活動内容、学内の反応などについて詳細に紹介いただく。その上で、全学的なファカルティ・ディベロップメントを展開するための組織作り、目標設定、教員の意識改革、プロジェクトマネジメントなどについて、フロアを交えて討議する。

「教育の情報化推進本部の理念」

講師：明治大学教育の情報化推進本部長 吉田悦志 氏

「教育の情報推進本部設置までの経緯とその意味」

講師：明治大学教育の情報化推進本部副本部長 安藏伸治 氏

「教育効果向上のための教育支援」

講師：明治大学教育の情報化推進本部教育支援推進部長 阿部直人氏

「時代に対応した情報教育の推進」

講師：明治大学教育の情報化推進本部前情報教育推進部長 和田悟氏

「教室の復権のための情報環境整備」

講師：明治大学教育の情報化推進本部情報環境推進部長 石前禎幸氏

<パネルディスカッション>

パネリスト：上記講師

武蔵大学経済学部教授 梅田 茂樹 氏（フォーラム運営委員）

武庫川女子大学情報教育研究センター長 濱谷 英次 氏（ ” ）

司会 立正大学副学長 山崎 和海 氏（フォーラム運営委員長）

<本協会活動紹介>

<懇親会>

〔6月17日（土）〕 テーマ別自由討議

#### 分科会A 学生サービスとしての学内情報の活用

学生の学習や就職活動のためのオンライン学生サービスの充実が、大学の価値を高めるための今後の方策の一つとなろう。これらを充実させるには、学内情報や個人情報とうまく連携させて活用し、学生個々の能力や希望に応じたサポートやアドバイスなどを行っていく必要がある。本分科会では、名古屋学院大学が早くから取り組んでいる、全学生へのノートパソコン配付と、種々の学生向けオンラインシステムの構築事例を紹介いただき、教職員の連携のもと学生サービスや教育支援として学内情報をどのように活用していくべきかについて、個人情報保護法への対応も含め討議する。

キーワード：学生支援、教育支援、オンライン、学内情報、個人情報  
課題提起：名古屋学院大学学術情報センター課長補佐 高橋 公生 氏

#### 分科会B 教育目標を達成するためのe-Learning活用

近年、多くの大学でe-Learningが導入されているが、e-Learningの利用範囲は広く、その基盤となるシステムについても独自に開発しているものや市販など様々である。本分科会では、Web上の予習復習教材の活用とチュートリアルレッスンを組み合わせて長年英語教育でe-Learningを実践されている事例、および、薬学部で国家試験自習用をはじめ、基礎科目の復習用コンテンツを数多く開発し、利用されている事例について、学生の反応と効果、作成側の負担の軽減法など実演を交えて紹介いただき、教育目標を達成するための効果的なe-Learningの活用方法について討議する。

キーワード：予習用教材、復習用教材、基礎科目コンテンツ、専門科目コンテンツ、コンテンツ作成ツール

課題提起：早稲田大学教育学部教授 中野美知子氏  
明治薬科大学薬学部教授 梶原 正宏氏

#### 分科会C 教育改革実現のための教育支援と組織的取り組み

社会から期待され要求される大学の役割は、何よりも次代を担う人材の育成である。そのため、学生の質を保証するための教育が問われ、それが大学評価と直結する。元来研究志向が強く、教育についての専門的教育を受けていない教員からなる大学の教育力向上には、個々人の努力のみではなく、大学全体としての組織的な取り組みが必要である。本分科会では、教育の質の向上に向けてe-Learningを導入した先駆的の大学から、導入の経緯と問題点、支援体制、実施状況と今後の課題などを紹介いただき、教育支援として必要な組織的取り組みについて討議する。

キーワード：教育支援、e-Learning、ファカルティ・ディベロップメント、教育改革、支援組織

課題提起：帝塚山大学副学長、経済学部教授 伊原 豊實氏  
" TIES教材開発室 堀 真寿美氏  
玉川大学eエデュケーションセンター副センター長一  
橋本 順一氏

#### 分科会D 社会の支援を取り入れた新しい教育システム

教育の最大の課題は、学生に学ぶことの動機付けを徹底し、学習意欲を高め、持続させることである。そのためには、学生の日線で学ぶことの重要性や意義を理解させる工夫が必要で、教員一人の授業に加えて社会の支援を取り入れることも一つの方法である。本分科会では、社会での現場情報や体験情報による理論の裏付けや、学生への社会からの指導・助言による通用性のある授業を実践されている事例を紹介いただき、社会の支援をどのように効果的に教育に活用していくべきか、その可能性について討議する。

キーワード：産官学連携、教育改善、ファカルティ・ディベロップメント、教授法開発

課題提起：帝京科学大学コミュニケーション科目教授 山本 涼一氏  
帝塚山大学経済学部教授 中嶋 航一氏

#### 分科会E 教育への意識改革を目指した教育評価・点検への取り組み

現在の学生の基礎学力、人間力の問題などにより、従来の教授法では十分な教育成果をあげることが不可能となっている。一方、教員側でも研究活動が中心で、教育への対応は必ずしも十分とは言えない場合があり、教員一人ひとりに教育改善を徹底することは難しい。大学の課題は、教員に教育重視の意識改革を促すことにあるが、そのためには教員自身に教育への自己点検・自己評価を実践いただくような教育評価の制度が必要である。本分科会では、教育評価について先駆的に実施されている大学から、導入の経緯、教育改善への効果について紹介いただき、大学戦略としての教育業績に関する評価制度の意義について理解を深めるとともに、教育に求められる教育指導能力の在り方についても模索したい。

キーワード：ファカルティ・ディベロップメント、教育評価・点検、教育能力、意識改革、

課題提起：私立大学情報教育協会 井端 正臣事務局長  
中部大学大学教育研究センター長 坪井 和男氏

昼 食

キャンパス見学

#### (2) 開催結果

参加者は、昨年度より約60名減の323名であった。なお、開催結果の詳細は、資料編【資料9】を参照されたい。

#### (3) 次回への準備

運営委員会では、参加者からのアンケートを参考にしながら、19年度の開催方針を検討した結果、6月15日、16日の2日間の日程で開催し、1日目に全体会、2日目には分科会形式でテーマ別自由討議と事例紹介を実施することにした。1日目の全体会は学生の学習意欲低下や閉塞状態にある授業など大学が抱える問題を踏まえ、学生の学ぶ力を高めるための取り組みとして、早稲田大学における学部の枠を越えた教育や教育改革としての教育のオープン化の事例紹介を実施することとした。2日目前半のテーマ別自由討議は初年次教育と教育支援、学習意欲や参加意識を高めるための携帯電話の利用、ファカルティ・ディベロップメントへの取り組み、スタッフ・ディベロップメントへの取り組みをテーマとすることとした。また、後半の事例紹介は文科系と理工系教育におけるファカルティ・ディベロップメントとIT活用、産学連携、学習支援と支援環境整備をテーマとすることとした。会場は明治大学駿河台校舎とした。